

視覚障害、肢体不自由重複者の
生活の実際 ～リハビリ、看護
等の援助職の方に知ってほしい
こと～

河和 且

セミナーの内容

- 自己紹介
- 私の障害について
- 視覚障害者の特性と心理
- リハビリ、看護介入時のポイント
- まとめ

1

2

自己紹介

現在の仕事

- 目が不自由な方のためのITサポーター。
- 2013年に視覚障害者向けにIT機器の販売、操作指導、サポート業務を行う株式会社ふくろうアシストを設立。
- 現在、自宅兼事務所にて、パソコンやスマートフォンの操作指導やサポート業務に従事。

3

4

【実績】

- 全盲の方にオフィスソフトの講習を行い、転職につながった。
- テレワークへの対応(Zoomの操作法等)
- 全盲の小学生向けにスマートフォンの操作指導。

5

私の障害について

6

障害名

- 未熟児網膜症(視覚障害2級)
- 脳性麻痺による運動機能障害(両下肢障害3級、左上肢障害4級、右上肢障害7級)
- 上記障害のため、外出時には車椅子を利用し、介助者を同伴している。

7

視覚障害者の特性と心理

8

視覚障害とは？

- 「全く見えない人」＝全盲（ぜんもう）
視力の良い方の眼の視力が0.01以下のもの
- 「視力はあるが、見えづらい人」＝
ロービジョン または弱視
ロービジョンの特徴：眼鏡やコンタクト
レンズで矯正しても、視力障害や視野障
害が完治せず、日常生活に
支障をきたす。

9

晴眼者の見え方



10

視野の中心だけ 見える人の見え方

顔を動かさずに見え
る範囲はこれぐらいし
かない。



11

まぶしく感じる見 え方

明るい場所では目を
開けているのがつら
いぐらい「ギラギラ」見
える



12

暗く感じる見え方

薄暗く感じる場所でも、「真っ暗」に見える



13

ロービジョンの人の心理

- 視覚的な状況が判断できないことからくる不安感
- けが、転倒にまつわる不安感
- 失明する恐れからくる不安感

14

リハビリ、看護介入時のポイント

15

あいさつの時、名前を名乗る

- 視覚障害者は援助者の「声と名前」を覚える。
- 初顔合わせになって間もないうちや、久しぶりに訪問したスタッフの方は、声の特徴と名前が一致しない。
- 家族など同居者がいる場合、だれからだれによびかけたかがはっきりわかるように声をかける
(視覚障害者はアイコンタクトがとれないことに配慮する)。

16

状況がはっきりとわかる言葉を使う

- 物の位置を伝えるときは、利用者から見て右、左、前、後ろ、上、下、手前、億など、具体的な言葉を使う(援助者と向かい合っているときは、左右を言い間違えないように注意する)。
- 「あちら」「こちら」など、抽象的な指示語はNG。

17

歩行訓練中の対応

- 安全に配慮した対応
利用者が物や人とぶつかったり、段差に躓いて利用者が転倒することを避けるため、路面の状態を説明したり、段差等の手前で止まるように促すなど、きめ細やかな対応が必要。

18

書字訓練

- 書きやすいように照明を工夫する。
- サインガイド、遮光眼鏡等の補助具も有効。

19

看護介入で服薬補助が必要なとき

- 薬のかたち等、手で触って確認してもわかりづらい
- シールの枚数や収納容器
- 等、形や手触りの違いで確認できるよう工夫するとよい。

20

まとめ

- 視覚障害を持った人は、心理的に不安になりやすい。
- 援助食の方には安心してケアを受けられるような環境調整に、力を注いでいただきたい。